

---

## 当院における転倒事例減少に向けた取り組み

高橋 郁夫<sup>1</sup> 堀 浩<sup>1</sup> 古川 亜希子<sup>2</sup> 矢研田 めぐみ<sup>2</sup> 田中 龍也<sup>3</sup>  
長谷川 和子<sup>4</sup> 後藤 舞<sup>5</sup>

(みどりヶ丘病院 内科医師<sup>1</sup> 看護師<sup>2</sup> 診療情報管理室<sup>3</sup> 業務管理室<sup>4</sup> 病診連携室<sup>5</sup>)

---

人口の高齢化に伴い入院患者に後期高齢者（75歳以上）が占める割合も増加している。当院でも平成24年には75歳以上の患者の占める割合が51.2%であったが、平成26年には56.9%まで引きあがっている。合わせて認知症合併患者の占める割合も増加していると考えられる。

このような背景の中で増え続ける転倒転落事故は医療現場において深刻な問題のひとつであり、当委員会としても未然に防止するとともに、被害を最小限にとどめる対策が求められている。

入院後の転倒は患者さん自身にとって更なる苦痛の増強となり、また、病院にとっても入院の長期化を招き極力避ける事が要求される。

今回当院での3b（濃厚な治療を要する）以上の転倒転落事例の分析、その後の対策を通して改善傾向が見られた。